

つながるひろがる

国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト

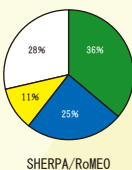
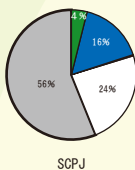
学協会等の著作権ポリシーデータベース (SCPJ)

■SCPJとは

SCPJは、国内の学協会等の論文公開についての著作権に関する方針（ポリシー）を簡単に確認できるようにしたデータベースです。

著作権ポリシーは、SHERPA/RoMEOに準じてGreen（査読前及び査読後論文を許諾する）、Blue（査読後論文のみ許諾する）、Yellow（査読前論文のみ許諾する）、white（認めない）、Gray（調査中）として表し、学協会名のはか、雑誌名からも検索できるようになっています。

■機関リポジトリでの論文公開についての許諾状況



7月にリニューアルしたSCPJのページ

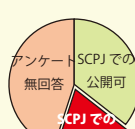
SCPJで公開している605の学協会のうち約20%（123学協会）が、査読後または査読前の論文の著者最終原稿の機関リポジトリでの公開を許諾しています。24%（143学協会）は「認めない」、56%（339学協会）が「調査中」と回答しています。これは、欧米の出版社の約70%が許諾している状況と比べると、まだまだリポジトリに対する理解が得られていない状況であると言えます。

アンケート調査の実施

■調査概要

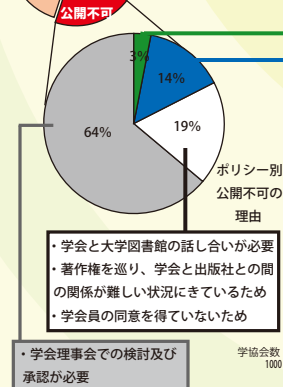
SCPJの構築にあたっては、国立大学図書館協会学術情報委員会デジタルコンテンツ・プロジェクトが2006年1月に行った調査結果を踏まえ、学協会等に対し、著作権の取扱い等に関するアンケート調査を2回実施しました。

■調査結果



回答のあった936の学協会のうち、331（19%）の学協会は、SCPJでの公開は不可との回答でした。リポジトリでの論文の公開を許諾すると回答しながらも、その方針を公にすることをためらう学協会も多く、その理由からは学協会側の事情が窺えます。

Green Blue Yellow White Gray

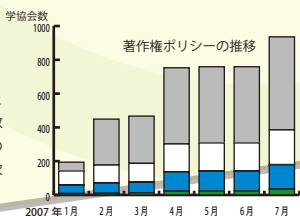


・著作権は出版社との交渉により決定されるが、著作権ポリシーの公開はその交渉に影響を与えかねない
・和文誌と英文誌とで著作権の扱いに不整合な部分が多々あり、学会としてのポリシーを今後検討する必要がある

・学会としての方針がまだ流動的
・短時間で回答した内容が本学会のポリシーとして公開されて一人歩きすることに懸念

・学会理事会での検討及び承認が必要

とは言え、学協会との根気強いやりとりを続ける中で、アンケートの回答数が増加するにつれて、リポジトリでの論文の公開を許諾する学協会の数も次第に増えつつあります。



筑波大学学術機関リポジトリ「つくばリポジトリ」



教員へのインタビュー風景

2006年3月にスタートした「つくばリポジトリ」(Tulips-r)は、総コンテンツ数16,800件を超える国内最大規模の学術機関リポジトリです。2007年度は特に、学内教員へのプロモーション活動に力を入れています。教員会議などにおいてプレゼンテーションを行うとともに、各教員の研究室を訪問して研究・教育成果の発信についてインタビューをさせて頂き、研究者の生の声を、これからの「つくばリポジトリ」のあり方に反映できるよう心がけています。



筑波大学附属図書館研究開発室における成果物

■研究開発室の活動

研究開発室の中のプロジェクトの一つである「電子図書館の高度機能に関する研究」においては、学術機関リポジトリとリソースオーガナイザーについて、それぞれの概念・構想に関する基礎的な検討、電子図書館システムにおける機能の実現と運用の方法、評価の方法等についての多角的な検討及び研究開発を行っています。

■機関リポジトリ横断検索システム (Tulips-rfs)

筑波大学学内プロジェクト「電子図書館における学術情報の組織化と発信・リソースオーガナイザーの開発（平成17-19年度）」の研究助成を受けて開発が行われたもので、検索エンジンは株式会社リコーのTRMeisterを使っており、国立情報学研究所機関リポジトリポータルJunii+やGoogle Scholarなど、他の検索エンジンとの違いをお楽しみいただけます。

■その他

さらに、Airway対応リンクリソルバやフレキシブルポータルなどについても開発を進めています。

筑波大学附属図書館のキャラクター
ちゅーりっぷさんとがまじゃんぱー



筑波大学
University of Tsukuba